

横浜市インフルエンザ流行情報 11号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

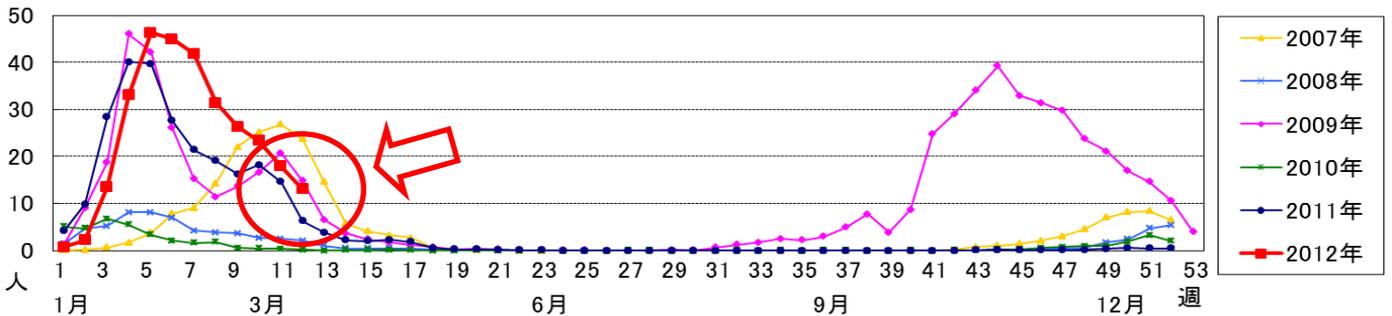
《トピックス》
流行は減少傾向です。

【概況】

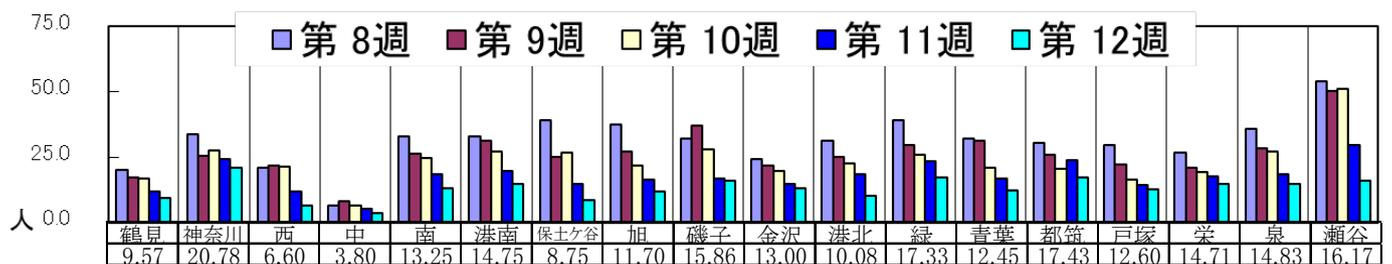
第12週(3月19日～3月25日)に定点^{※1}あたり13.06となり減少傾向です。インフルエンザに罹った場合は、水分補給を心がけ、医師から処方された薬は症状が出なくなっても最後まで飲みましょう。意識がもうろうとなった時は重症化のサインなので、すぐに医療機関を受診^{※2}しましょう。

※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。
 ※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/influchirasi.pdf>

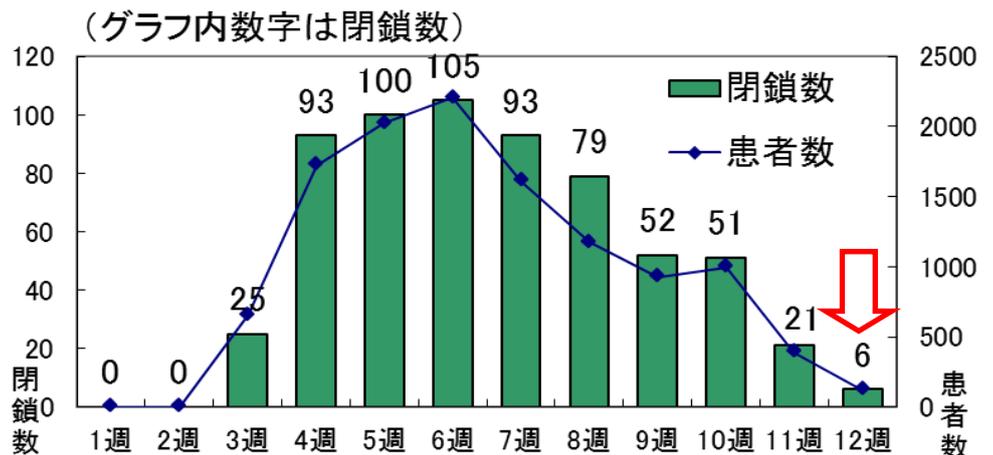
1 市内流行状況: 第12週では定点あたり13.06と、減少傾向が続いています。



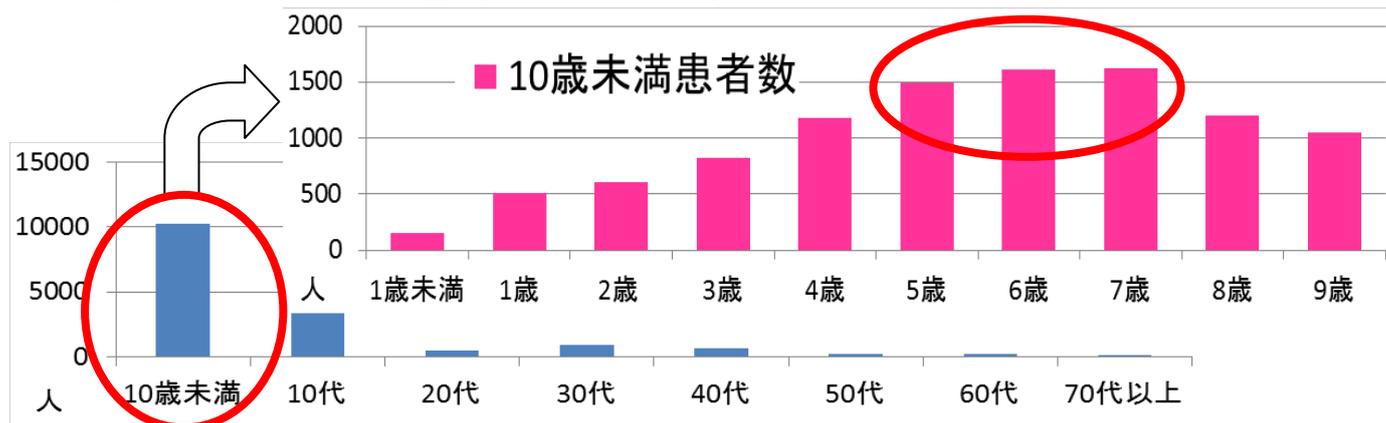
2 区別流行状況: 全体的に減少傾向です。



3 市内学級閉鎖等状況: 第6週以降減少傾向が続いています。第12週の施設種別では小学校3件、保育所3件、でした。

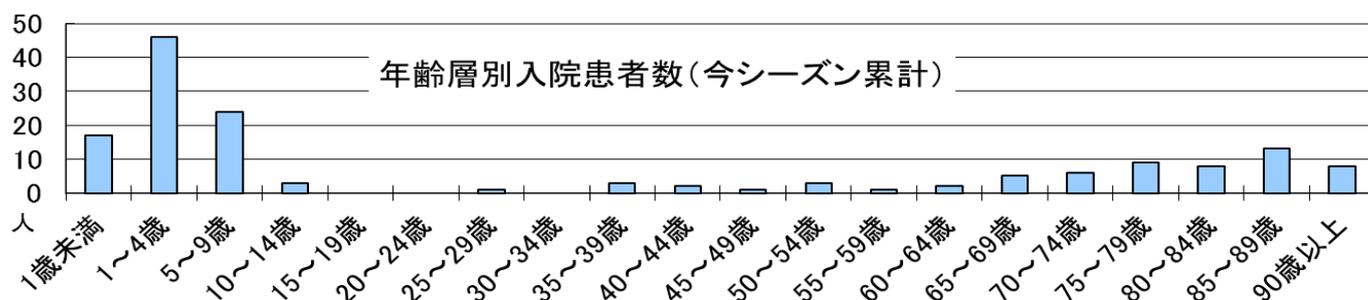


4 年齢層別集計: 第 8 週から第 12 週までの直近 5 週間の累計では、今までの傾向と同様に 10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 5~7 歳で多くなっていました。

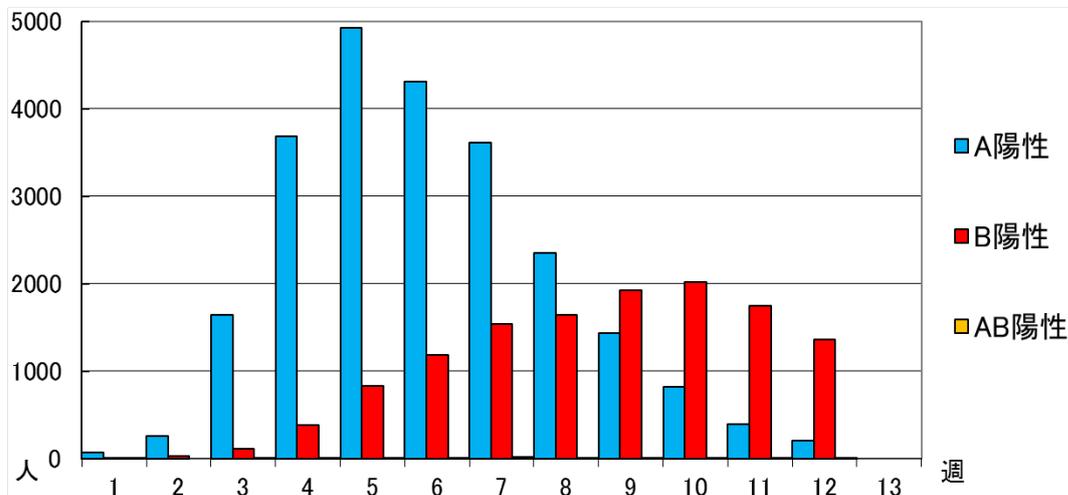


5 入院サーベランス: 市内基幹定点^{※3}医療機関における、インフルエンザの年齢層別入院患者数の集計です。10 歳未満の入院が多く、次に 65 歳以上となっています。

※3 基幹定点: 基幹定点とは、患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 3 つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果: 市内患者定点医療機関における、迅速キットによる型別の報告数では B 型の割合が増加しています。迅速キットで判定された型のうち、第 12 週では 86.6%が B 型でした。



※病原体検出状況については、前号から解析が進んでいないため、今号は掲載していません。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

同 検査研究課ウイルス担当

TEL 045 (671) 2463

TEL 045 (754) 9816

TEL 045 (754) 9804